



10月から5回にわたって検討された市民会議報告書が平林市長(右)に手渡された

市民会議には、公募による市民や地域審議会委員、市職員など約90人が参加し、ワークショップ形式で検討を重ねました。参加者は、6グループ(行財政防災・市民環境・健康福祉・産業観光・都市基盤・教育文化)に分かれて、まちづくりの課題やその解決策などを話し合い、平林市長への報告書をまとめました。

報告書では、一体感のあるまちづくりを行うためには、各地域に育った文化・風土をお互いに理解・尊重し、住民が同じ財産として共有することが大切であるとしています。その上で、一体感を醸成す

行政委員会 新しい監査委員が決まりました

12月定例会に監査委員の選任に関する人事案が提出され、議会の同意を得て、新しい監査委員に千國倅嗣氏(三郷温)が選任され、平林市長から辞令が交付されました。

任期は、平成18年12月20日から4年間です。



千國 倅嗣氏

安曇野市市民会議

総合計画策定に市民の声を

まちづくりの基本となる安曇野市総合計画の策定に向けて、多くの市民の皆さんの意見や提案を反映するために開催した市民会議。その成果が「市長への提言」としてまとめられ報告されました。

安曇野市総合計画の策定に、多くの市民の皆さんに参加していただくために開催された市民会議の報告会が12月25日、堀金総合支所で行われました。

市民会議には、公募による市民基地となる本庁舎の必要性や総合計画の早期策定などを提案し、市民には、市政への参加の機会があれば積極的に参加することなどを求めています。また、安曇野らしい景観を守るために看板・建物などの高さや色を規制する条例の制定、電線類の地中化も提案されています。

平林市長は「皆さんの熱い思いがこもった提言を一つ一つしっかりと検討し、計画策定の中で反映させたい」とあいさつしました。市は、報告書を踏まえ、来年12月までに総合計画を策定する予定です。



5 日目は11月30日、三郷公民館講堂で開催され、233人が参加しました。

市の積極対応を

意見 産業廃棄物の中間処理施設建設の問題について、市も積極的な対応をお願いしたい。

市長 産業廃棄物は県の管轄で、現在、裁判にて係争中。県では「許可しない」といつて裁判になっているが、市としても許可されていないとは思っていません。裁判の過程を注目しながら、いつでも対応できる準備体制を整えなければならぬと考えている。

1つの流れになって

意見 合併後の各地域の調整と統一をもっと緩やかに、地域の手法をある程度残して調整したかどうか。

市長 いかにも平準化を図っていくのかだと思ふ。地域には良い行事などがたくさんある。地域の特色を生かせるなら、市で創設を検討している県の「コモンズ支援金」のようなものに当てはめて支援していきたい。地域によっては、補助金を使わず、地域のみで運営しているものもある。良い試みは全域に広げられることも検討していく。

外国籍市民への支援

意見 外国籍市民が住民としても、労働者としても増え続けている。もっと支援・対応策が必要ではないか。

市長 現在活動されている皆さんには、素晴らしい活躍をいただき感謝している。国際交流の面もあるが人権問題でもある。習慣の違いからくるすれ違いについては悪意から発生するものではない。もっと地域と交流できれば素晴らしい。合併前より、対応に拡大するなど、支援策を前向きに考えていきたい。

11/30

19:00~21:30

三郷地域
参加者233人



その他の意見

- 1. 公共施設の利用
- 2. 最終処分場
- 3. 木質バイオマス
- 4. 三郷小学校の規模
- 5. 分館建設補助金対象
- 6. ウィルス肝炎
- 7. 財政の健全化と観光
- 8. 男女共同参画の社会づくり など



三郷小倉 布山 雅崇さん

住民不在のまま建てられてしまった産廃施設の事で要望しました。現在は県と業者の間で裁判中ですが、今後市としても積極的な対応、そして応援をしてほしいと思います。今日は市長と直接話ができ、参加者にもこの問題を知っていただき良かったと思っています。

参加者に聞く

特集◎市長と語る会ダイジェスト